

13th Deliverable

第13回目 成果物

WingMakers StudyGroup Japan (WMSGJ)

Rev/1.2

2024/11/12 (2024/04/10 Update)

2つの生き方

生き方	作成者	役割	発見	住处	言葉	時空	階層	自然	脳
1冊目の本	ハイヤーセルフ (ファーストソース)	高次の目的に基づく。	滅多に発見されない。	6つのハートの美徳の中	叡智	ナウネス (今この瞬間)	非階層的	調和	右脳的
2冊目の本	ハートとマインド	時空の世界の中のエゴ・パーソナリティが認識した必要性に基づく。	大半の人が読んでいる。	ソーシャルプログラムの中	知識	過去、現在、未来の螺旋の中	階層的	非調和	左脳的

1冊目の本の生き方・・・

「

2冊目の本の生き方・・・

「

」

」

生き方を
振り返ってみましょう。

ウェザーコンポーザーの書籍中の写真

WMSGJ

The Weather Composer
Rise of the Mahdiより

アッシリア(シュメール)美術の
アヌンナキ(アヌ)

クォンタスムの本には、
このような写真は
見当たらなかった。

下記のアッシリア・レリーフは
本中のものと、ディテールが
少し異なっている。

オリエント悠久の歴史を生活文化の視点で



アッシリア・レリーフ「有翼驚頭精霊像」

(紀元前9世紀)

約3000年前、古代オリエント世界を初めて統一したアッシリア帝国は、今のイラク北部にあり、旧約聖書にも度々登場している。宮殿内壁を飾ったこのレリーフは、アッシリアの首都の1つであるニムルドで発掘されたもの。世界でも稀少なコレクションで、2004年、美術館創立25周年を記念して広く市民に基金を呼びかけて収蔵することができた。

(出典)https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/61/17_museum/museum.htm

おそらく編集でラン
ゲージオプライトが
追加されている。



ChatGPT 4Vによる解釈

===

この画像は、古代メソポタミアのアッシリア時代の彫刻を示しているようです。こうした彫刻は一般に「ラマッス」と呼ばれ、神殿や宮殿の守護者としての役割を持っていました。人間の頭を持ち、体は牛やライオン、そして翼は鳥の特徴を持つこれらの像は、力と権威を象徴していると考えられています。また、これらは神々の存在を常世から現世へとつなぐものとして、また悪霊から人々を守るために配置されていたとも言われています。

この特定のレリーフは、細かいディテールまで精巧に彫られており、アッシリアの芸術と建築の高度な技術を示しています。アッシリアの彫刻は、彼らの宗教的信念と政治的権力の表現として重要な役割を果たしていました。これらのレリーフは、現在では世界中の博物館で見ることができますが、元々は現在のイラクにあたる地域のアッシリアの都市であるニネヴェやアッシュールなどにあった宮殿や寺院の壁面を飾っていました。

===

Wingmakers Study Group Japan

WMSG